

## 子どもの本だな 38

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

## アンディとらいおん

ジェームズ・ドーハーティ ぶん・え  
むらおか はなこ やく (福音館書店)

アンディは、図書館でライオンの本を借り、ごはんの間も夢中で読みました。次の日、アンディは学校へ行く道の曲がり角で本物のライオンに会い、慌てて逃げようとしたのですが、ライオンの足に太いとげが刺さっているのに気がつきました。釘抜きで抜いてやると、ライオンは喜んでアンディの顔をぺろぺろ舐めました。

しばらくして、町にサーカスがやってきました。アンディが、ライオンの芸当を見ていた時、1番大きなライオンが飛び出し見物席へ突進してきました。アンディは逃げ回るうち、ライオンと真正面に向き合ってしまうのですが、それはアンディの助けたあのライオンでした。

黄土色と黒の2色で生き生きと描かれる絵は、躍動感にあふれ今にも動き出しそうです。アンディとライオンが再会し踊り出す姿から、2人の嬉しさが伝わります。読んでもらえば5, 6歳から。 (池之上)

## とびきりすてきなクリスマス

リー・キングマン 作 バーバラ・クーニー 絵  
山内 玲子 訳 (岩波書店)

セッパラ家は子どもが11人いる大家族です。10歳のエルッキはクリスマスを楽しみに待っています。ところが、クリスマスまであと2週間というとき、兄さんの働く船が行方不明になったという知らせが届きました。

エルッキは、毎年家族に素敵なプレゼントを買ってくれる兄さんに代わり、プレゼントを用意し始めました。板を釘で打ち付けた箱に車輪と取っ手をつけ、ペンキを塗った手押し車。古い洋服で作ったまり。木切れでつくった汽車。ゴムまりの頭の人形とオートミールの箱でできた人形の家…。クリスマスの前日、モミの木は母さんが編んだ10組のミトンや木の実、色紙で飾られました。エルッキは、家族でかけた教会を抜け出すと、プレゼントをモミの木の下に置きました。

誰もがエルッキのプレゼントに大喜びするなかドアが開き、兄さんが立っていました。家族そろってクリスマスを迎える幸せと、エルッキの心のこもったプレゼントに心温まる物語です。読んでもらえば6歳から。 (竹内)

12月	1月	12・1月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
8日	12日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
15日	19日	岩見構下 公民館 10:30~10:50	岩見構上 公会堂 11:00~11:20	原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
22日	26日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		吉福 公民館 15:30~15:50	太子 ニュータウン 公民館 16:00~16:30

## お知らせ

登録の更新をお願いします  
図書館では、3年ごとに、氏名、住所、電話番号などの確認と、利用カードの更新を行っています。「利用カード申込書」に記入し、住所氏名が確認できるもの(健康保険証、運転免許証、学生証など)とともに、カウンターの図書館員に提出してください。

# 『忘れられた巨人』

カズオ・イシグロ 著

土屋 政雄 訳 早川書房 415頁 2015年4月刊 1,900円 (請求記号)Fイ

6世紀、アーサー王没後のイングランドを舞台とした物語。ブリトン人アーサーはサクソン人との争いを終結させ二つの民族は各々村を作り共に暮らしていた。年老いた夫婦、アクセルとベアトリスは村人たちから蠟燭を取り上げられたことから、かつていたはずの息子を探す旅に出る決心をする。かつていたはず、というのはこの村には何の原因か皆が記憶を無くしてしまうという現象があるのだ。二人はベアトリスのかすかな記憶を頼りに遠く離れた村に辿り着くが、サクソン人のその村でも記憶を無くす現象に悩まされていた。村で知り合った旅のサクソン人戦士と村の少年と共に旅をする途中、アーサー王の騎士、老ガウエインと出会う。そして彼らと旅を続けるうち様々な事が明らかになっていく。記憶を無くすのは雌竜クエリグが出す霧が原因で、サクソン人戦士はクエリグを討つために遣わされていた。老ガウエインはその役目は自分のものだと主張するが、真実はクエリグを守るのが彼の役目だった。アーサー王は国土を統一するため、サクソン人と結んだ協定を破った。そしてその記憶を消すために忘却の霧を吐き出すクエリグの保護をガウエインに命じたのだ。そして破られた協定を結ぶために働いたのは、かつて円卓の騎士であったアクセルだったのだ。

違う民族が共に暮らす困難さ、それを可能にするための忘却の霧。忘れることは何を意味するのか、それは良い事なのかと登場人物たちと一緒に考えてしまう。そして最終章にはアクセルとベアトリスの最後の幸せが語られると思いきや、それは読者の想像に任される。人生の終わりに何を幸福と感じるのだろうか、誰と幸福を分け合いたいのだろうか、そして忘却とはと、作者の示す問いは現代に生きる私たちにも突きつけられる思いがする。(西村)

カレンダーの×印は休館日。

開館は10時～18時。

金曜日は20時まで開館。

## 12月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	×	×	7	8	9	10
11	12	×	14	15	16	17
18	×	×	21	22	23	24
25	26	×	28	×	×	×

## 1月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
×	×	×	4	5	6	7
8	9	×	11	12	13	14
15	×	×	18	19	20	21
22	23	×	25	26	27	28
29	30	×				

## お知らせ

### 講演会

#### 『スウェーデンの暮らしと文学』

講師：横野菜々さん

日時：12月18日(日)

14時～16時

会場：図書館 読書会室

対象：高校生以上(40名)

### 13歳からの読書会

『アンナプルナ登頂』を読んで

日時：平成29年2月5日(日)

会場：図書館 読書会室

対象：中学生以上

準備：当日までに本を読んできてください。

## 地下水

11月初め、トライやるウィークで中2の生徒を4人受け入れた。カウンターでの貸出・返却だけでなく、本の分類や登録、絵本の読み方、レファレンスなど、図書館の主な仕事をひととおり体験してもらった。

朝のミーティングの時に、お互いの自己紹介も兼ね、皆で「自分がやっていて楽しいこと」を言うことにした。読書はみんな好きなので、それ以外のことで。旅行の計画をたてること、家族で山歩き、お父さんとバトミントン、本の感想を語り合うこと…。生徒のひとりが「走ってるとき」と言った。「無心になれるから？」と聞くと「いや、ただ、走っていると気持ちいい」。いいなあと思った。

おとなしそうに見えた子が自分の趣味について熱く語ったり、大きなお弁当をペロリとたいらげたり、読み応えのある神話が好きだったり。若いっていいなあと思えることがたくさんあった。

トライやるウィークは、忙しいし緊張もするけれど、生徒たちにとっても、図書館の仕事や社会で働く人たちについて、新しい発見があればいいなと思う。

(池田)

